練を施したので他の暴行行爲とは異る動作があつたからであらう。

ファシスト黨はまたファシスト黨自らの勞働組合を組織した。當時種々性質を異にする勞働組合が自衛的に組織された。社會主義に基く勞働組合をはじめ加徒力教勞働組合と云ふが如きすら組織された。强勢なるプロ主義の勞働組合を破る爲めにファシスト黨は組合員を自黨の組合に拉致し幹部を孤立に陷らしめる方策をとつた。ファシスト黨はまた產業革命者のなした暴壓手段に報ゆる爲めに社會黨及び共產黨が所管する地方自治團の財產を强制的に奪還した。ファシスト黨は更に一般斯る手段に適す可き武裝國民團を組織した。政府は共產黨社會黨の年來の暴威の爲めに荒らされてゐたので全く無力となり一政黨の組織する軍隊的結束を阻止する實力を持たなかつた。政府はファシスト黨の軍隊組織を看過するのみならず國家の軍隊からも秘かに補充すらなしたのである。

膨張したファシスト黨は烏合の衆を整理して改組の止むなき目が來た。在來の諸政黨は或は力を失ひ或は吸收されてファシスト黨の權勢の前に脆く倒れんとした。中央に於けるファシスト黨幹部は仆れんとする敵黨を追求して却つて反撥せしめることを欲せず社會黨共產黨と一時妥協的態度をとつた。それにも拘らず地方黨員は社會黨共產黨員に對して暴行を頻々と行つた。賢明なるムソリニは地方黨員の暴擧は黨是として認める力(Force)の吐き違ひであると云つて嘆いた。遂にはファシスト黨の幹部たることを辭するまでになつた。やがてファシスト黨が改組されて『國民ファシスト黨』なるものが組織された要するにファシスト黨は所謂秩序ある暴行時代を經て秩序あり內容ある一大政黨となつて進化の道程を踏んだのである。

新著紹介

○日本工業大觀（英文）　萬國工業會議編　菊版五八四頁　寫眞版　圖表　地圖類の圖版七十葉　昭和四年十月　工政會發行　定價六圓

本書は昨秋東京で開かれた萬國工業會議の際日本の工業を海外の會員に知らせる爲めに書かれたものである。我國の工

業は現時では多岐に亘るのと近來長足の進歩をしたからかうした綜合した著書は國内の人に對して特に必要である。殊に人文地理の資料となすことが出來る。其の内容を示すと、總論、土木、建築、鐵道、鐵道電化、送電線、電氣事業、電信電話、電氣機械器具製造、機械工學、冷藏業、紡績業、鑛山冶金、セメント工業、窯業、硝子工業、酸アルカリ、香料香油、塗料及漆工、ゴム、油脂工業、釀造業、醱酵工業の各章があつて僅かに造船業等の或る工業を缺くのみで殆んど本邦工業の全般に亘つてゐる。執筆者は官廳の最高技術官、大學教授、私設會社の技師長等各一流の權威者のみである。記載はかなり縮壓されてをつてゆとりの少ないものが多いが、其と共に數量を擧げてある故一般工業の通觀に對して確實な知識を供給して居る。(N)

○ Geologic And Tectonic Study of Shikoku　江原眞伍著

Japanese Journal of Geology and Geography
Vol, VII, No. 1, 1929.

本論文は江原理學博士の博士論文である、同君は刻苦精勵四國の地質研究に從事すること殆ど十年毎學年の休暇、風がふいても雨がふつても四國の山河を隅から隅へと跋渉された結果である。金鐵の如き體格の持主でなくては、これだけの仕事は出來ないであらう。本書附圖四國の地質圖は最も苦心の作である、本文英文で四十二頁、附圖五葉、我等は我等の會友に如斯き不言實行の學者を有するのを誇りとする、いづれ和文にした著者の論文を本誌にのせる時がくるであらうことを期待する。(F)

○鹿兒島語法　村林孫四郎著　鄕土研究社發行　定價八十錢

九州南部人文の現象として、鹿兒島語といふべき方言がある、薩隅日三州にわたつての、隼人の手形と考へらるゝ言語であるが、著者は骨てこれを明治四十一年の鹿兒島新聞に連載し且出版されたのを、今度訂正して出版された、鹿兒島語の特産としては、長音の短音化せるもの、二音の一音となれるもの音韻の落ちたもの、促音撥音となつたものゝ多いことである。例令ばオイカケタ本ノ見チクイヤイ、といふのは、「己がかいた本を見てくれやい」といふ意味であつて、カイタがケタ、見テクレがミチクイといふ風に促まつたり、撥ねる結果である。氏は第一章に名詞をあげて、正しかりし語の轉訛して方言となつたもの、例令ば、上方をカンガタ、病をヤツメ、旅人をタンニンの類から、車をクイマ、春をハイといつたもの、意義の轉用、組立の異なるもの、古語外國語、音韻を用ふるものから、助詞の融合、指詞及動詞の活用助詞の活用等いづれも説明が手に入つたものである、我等は今日までよく鹿兒島方言の集を見たが、しかし今日までかやうに親切に編成されたものを見たことがない、熟讀してゆく間に丹波邊の山の中の方言にも若干共通するものゝあるものを發

見して愉快にたへない。同好の鄉土研究家に本書をすゝめて地方語研究の栞とせられんことをすゝめたい。(F)

○農村教育研究第三卷第一號　東京世田ヶ谷町代田

一〇六四　農村教育研究會

本誌は創刊から三年目、二十號である、一册二十錢一年二圓四十錢を會費としてゐる、本號は農村娯樂號である、南崎雄七博士の歐洲農村視察の一節が面白い、各地方農村の娯樂施設がのつてゐる、農村の中には今將に黎明の光に浴せんとする所が多い。予はかうした研究の益盛んにならんことを期待する。(F)

○鄉土研究家名簿　大西伍一發行　東京世田谷町代田

一〇六四　農村教育研究會發行

我國の鄉土研究家凡八百名の名簿である。各府縣別にして人名をあげた外に、その人々の重な著述と研究題目とを洩らさずしるしてある、これらの人士が互に氣脈を通じて鄉土研究に進んだならば、我人文地理學の發達の上にも多大の効があらうと考へる、本書は非賣品であるが右の會へ申込んだら實費でわけてくれるだらう。(F)

雜報

○地質調査所出版物の發賣　從來商工省地質調査所出版に係る諸報告類幷に地質圖等は其種類に從ひ丸善株式會社其他諸印刷所等數箇所に於て發賣せられ購入希望者は甚だ不便を感ぜしが今般東京地學協會にて同所出版物を取次ぐことゝし震災後の出版物を蒐集中なりしが爾今數種の絶版物を除き他は悉く同協會にて發賣せらるゝことゝなりたり。

○地球學團岡山支部狀況　第三十五回例會、昭和四年四月二十八日午前七時四十七分岡山驛發、中國線列車にて金川驛着、八木六高教授、中野二中教諭二氏指導の下に赤磐郡五城村伊田鑛山に向ふ(同鑛山は銅山なるが目下廢坑)午前九時頃到着、黃銅鑛、方鉛鑛、亞鉛鑛、孔雀石、方解石等の標本を採取して下山、浦上氏宅にて弁食を喫し暫時休憩の後零時半出發同郡竹枝村佐野鑛山に至り硫化鐵鑛、螢石、其他を採取す(同鑛山は硫化鐵鑛を產出すれども僅に採掘し小倉のベンガラ製造用として運搬しつゝあり)一行は山を越えて小倉に下りベンガラ製造の狀況を視察し歡待を受け數多の標本を送られ午後四時辭して歸途に就き午後五時五十六分金川發列車に投じ一同歸岡せり來會者會員二十三名岡山博物學會員九名合計三十二名の多數にて多大の利益を得たり。

○第三十六回例會　五月十九日午前九時より商業學校に開催左記講演ありたり。

歐米視察談　六高　宮原教授

尙別室に於て寫眞、エハガキ、其他參考品の展覽及び說明ありて後會員の質疑にも應ぜられたり右終はりて宮原教授と借